

□保護者意見の概要

小規模小学校の存続を望む意見

- 小規模校で、子どもたちと先生方との心の距離が近くにあり、子どもの興味のある活動が多く、とても魅力的である。
- 子どもの数が少ないことで先生の目が行き届き、学習面でも手をかけてもらえる。小学校の間は、小規模の環境がとてもありがたい。
- 少人数のメリットは、先生の目が子ども一人一人に行き届くことと、先生にも相談しやすく、担任の先生以外にも相談しやすいことである。子どもがのびのびとしており、学年を超えて仲がよい。
- 自分が住んでいる地域の小学校に通うことで、その地域に根付く思いやふるさとを思う心が育つ。少人数ならではの子ども同士の密なかかわりや先生とのやりとりが生まれ、少人数だからこそ相手を気遣う機会が増え、思いやりの心が育まれる。
- 小学校生活というのは、学校と家庭だけでなく地域のいろいろな方に支えられていて、子どもも親も学校も共にできている一体感があり、現状のまま地域に一つは小学校があることが望ましい。
- 小学校までは、地域の方との交流が多く、地元のことを知る機会があることが大切であると考えている。
- 子どもたちには、少人数ならではの、他の地域にはない魅力的な経験をより多くさせたいと考え、存続を望む。
- 統合することで、通学時間が長くなってしまい、子どもが学校に通うことが大変になったり、急な送り迎えの際、親の負担が大きくなったりするのが不安である。特に、低学年の子どもが遠くの学校に通うのは辛い。

小規模小学校の統合を望む意見

- 6年後の大幅な児童数減がわかっているのに、複式学級が見込まれる学校においては統合を見据えて動くほうがよい。学校を維持するために税金が使われている。今後、少子高齢化がいつそう進むであろう新都市において、現在の学校数を維持することは苦しいと思う。また、多様な考えを生み出す話し合いは複式学級では難しい。
- 少人数のクラスで気の合う友達を見つけるのは難しい。少人数の場合、一人も気の合う友達ができない可能性もあり、そのまま6年間過ごすよりも、統合することで多くの友達とかかわれるようにしてほしい。
- クラス替えがないと、苦手だと感じる児童と必ず同じクラスになることに不安感が強くなり不登校になる可能性もある。学年に2クラス以上あるとよい。
- 小さい小学校で6年間過ごした子どもが、中学校で大きい小学校の子どもたちと一緒にになったときになじめることができるかどうか心配である。
- 先生に恵まれて、少人数や複式学級のよさを生かして丁寧に見てもらっているが、複式学級は難しく、先生方の負担にもなっていると思う。
- クラス替えを経験できないことにより成長への懸念がある。子どもの数に対し学校が大きすぎて無駄な費用が発生する。古い設備を使い続けるくらいなら大規模改修や新築し、統合していくほうがよい。
- 鳳来地区は、いずれ中学校が一緒になるため、早い段階で統合を進めてほしい。施設維持、教員の確保などを考えると、少しずつではなく一気に統合する方法を検討したほうがよいと思う。
- これからの社会において、コミュニケーション力が重要視される。子どもたちが大人になり社会に出れば、国内外、世界中にはいろいろな人がいる。違いを知り、受け入れ、認め合い、人とのかかわりの中でしか経験できないことや味わうことができない感情があると思うので、子どもの数が減少するのであれば統合するほうがよいと思う。さまざまな人とのコミュニケーションができる教育環境を望む。